

2017年11月11日(土)・12日(日) 第1回「日本ダウン症会議」開催

## 新しいダウン症像を求めて

JDSでは実行委員会を設け、ダウン症についての学術ネットワークの構築を目的とする第1回「日本ダウン症会議」をジョン・ラングドン・ダウン博士(注:ダウン症命名の由来になったイギリス人の医師で、最初にダウン症の報告をした人物)が誕生した11月に、東京・巣鴨にある大正大学を会場として開催します。

ダウン症は、過去90年間に、平均寿命が6倍超になるなど、その状況が飛躍的に変化してきています。同時に、かつては見えていなかった各種の課題が次々と明らかにされてきています。医療においてはさまざまな薬物療法の可能性が探られる一方、出生前診断議論の矢面に立っています。福祉においても、教育においても、戦後最大級の政策転換期を迎えています。

一方で、医療・教育・福祉などの各分野で横断的に情報を共有する仕組みがありません。そこで、「これからの私たち ~新しいダウン

症像を求めて~」をテーマに、基調講演やパネル展示等を行います。それらの全体的な企画に加えて、乳幼児期~学齢期、青年期・成人期の保健・医療、教育、福祉、労働などから制度の動向まで、分科会方式により幅広いテーマを“本人たちを交じえながら”考えていくこととしました。

国際ダウン症連合(DSi)では、毎年共通の世界ダウン症の日のスローガンを決めて社会に対し運動を展開しています。2017年は、「マイ・ボイス マイ・コミュニティ」で、ダウン症のある人たちが豊かな生活を送るために政策提言の領域に踏み込んでいるようです。

日本で初の開催となる「日本ダウン症会議」への多くの皆様方の参加を心からお待ちしています。周囲の関係者の皆様にも、この会議の情報提供をぜひともよろしく願います。

<詳細については順次、会報・HP・FB等でお知らせしていきますので、ご注目ください>

## 祝 ぜんち共済が設立10周年

日本で唯一の障害者向け専門保険会社「ぜんち共済株式会社」が今年で設立10周年を迎えました。11月22日(火)に東京・霞が関で開催された記念パーティーには多くの人が駆け付け、榎本重秋社長や社員の皆様と共に、この日を祝いました。

同社の前身は2000年に誕生した「全国知的障害者共済会」。2006年の保険業法改正によって保険会社へ業態変更しなければならなくなり、同年11月同社が誕生しました。パーティーでは紙芝居師のかみはるさんが、同社の歩みを紙芝居で上演しました。会社設立までには苦労も多く、榎本社長は駅のホームから線路を眺め、「飛び込んだら楽になるかな」と考えたこともあったとか。多くの方から祝辞が寄せられ、さらにシンガーソングライターのうすいまささんとさんの歌と、画家のAKIさんのライブペインティングのコラボも加わり、華やかにお開きに。

榎本社長と社員一同、障害のある人のため、さらなる邁進を誓っていました。



榎本社長(左から3人目)と来賓の方による鏡開き